「チーム学校」による事務職員への労働強化と学校現場における不安定雇用の増大に反対しよう!!

全国学校事務労働組合連絡会議（全学労連）

「関ブロ事務研」参加の皆さん。私たちは、全国の学校事務職員でつくる労働団体「全国学校事務労働組合連絡会議（全学労連）」です。学校事務職員の労働条件を維持改善するとともに、学校ならびに行政の民主化を推し進めるための活動に取り組んでいます。

「チーム学校」の概要といま

昨年度より「チーム学校」という施策を巡る議論が進められています。これは、教員だけでなく心理や福祉等の多様な専門スタッフを学校に配置し、校長のリーダーシップのもと様々な業務を連携・分担して、チームとして職務を担う体制を整備するというものです。

この議論の中で学校事務職員についても、学校運営に関わる専門職員と位置づけるとともに、標準的な職務内容を国が示すことや定数措置を図ることなどが検討されています。

中央教育審議会「チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会」で14年11月より検討が進められ、昨年7月に中間まとめが、12月には答申が出されました。

「チーム」ってそもそもなんだ？

そもそも「チーム学校」の「チーム」とはどういったものでしょう？　言葉だけ聞けば「チームワーク」や「協力・共同」といったイメージも浮かびますが、「チーム学校」の本質はそんな牧歌的なものではありません。

中間まとめ・答申を通して強調されているのは、様々な専門スタッフをチームにまとめるため、学校マネジメント機能を強化しこれまで以上に校長がリーダーシップを発揮する体制をつくることです。答申に明記された「『チームとしての学校』像」においては「校長のリーダーシップ」を大前提として、その下での一体的なマネジメントが本旨となっています。

「チーム学校」の本質は、上意下達式の学校管理・職員管理強化の新しい論法に他なりません。

事務職員はどうなる？

そんな「チーム学校」答申で、事務職員はまさにこのマネジメント機能強化の文脈から、「その専門性等も生かしつつ、より広い視点に立って、副校長・教頭とともに校長を学校経営面から補佐する学校運営チームの一員」との期待をかけられています。この「期待」を嬉しいと思うかどうかは人それぞれですが、では具体的にどうなるのでしょうか。

答申ではまず、副校長・教頭がよりリーダーシップを発揮していくための改善方策として、「教頭と事務職員の分担の見直し」が謳われています。さらに「事務体制の一層の充実」と銘打った項目では、教員・教頭の事務業務が負担となっているとして、「副校長・教頭や教員が行っている管理的業務や事務的業務に関して事務職員が更に役割を担う」ことなどを謳っています。

なんのことはありません。やれ専門職だ、学校運営チームの一員だと持ち上げられても、その中身は単に副校長・教頭や教員の仕事を引き受ける役割でしかないのです。答申では「国は、事務職員の標準的な職務内容を示すことを検討する」とも述べていますが、これもそうした発想の中で行われるものであり、

事務職員からすれば単なる労働強化に他なりません。

事務職員の配置拡充を謳ってはいますが、来年度予算案でこれに当たる定数措置は全国でわずか 50 人、しかも加配という状況を見るに、労働強化に対応する抜本的な定数措置は望めません。「事務長」設置にも触れていますが、中身はまったくと言っていいほど練られておらず、取って付けたような言及に過ぎません。単なるリップサービスに過ぎないと見るべきでしょう。

答申全体を見ると、副校長・教頭や教員の負担・多忙を解消すると銘打ちつつ、学校現場に課される負担自体は減らすのではなくむしろ「学校に求められる役割が拡大」と謳うようにさらに増やす方向を示しています。そうした中での労働強化は過酷なものとなりかねず、絶対に認められません。

専門スタッフは配置されるのか？

「チーム学校」の対外的な目玉は、なんといっても各種専門スタッフの配置でしょう。特にスクールカウンセラー・ソーシャルワーカーについては教職員標準定数として位置づけ、国庫負担の対象にすることを検討するとしています。

しかし、現行の教職員定数さえ財務省から圧縮圧力を受け、35 人学級などの定数改善も頓挫を重ねている文科省の状況を見るに、新たな職の標準定数化は本当に可能なのか、財務省を説得出来るのか、大いに疑問です。

また、標準定数化されたとしてもその中身が問われます。11 月に全学労連が訪問した際、財務省担当者は「チーム学校」自体は評価しつつ、専門スタッフの基礎定数（学校規模と法の具体的な定めに応じて算定する定数）化については「必ずしもイコールとは考えていない」と述べました。これは「チーム学校」の考え方は評価しても、それに伴う職員配置は基礎定数ではなく、政策や予算により毎年変動する加配定数にしかならない可能性を示唆しています。

いつ打ち切られるかわからない加配となれば、そこには常勤ではなく臨時職員が充てられるのは、いまある加配の実態からも明白です。「チーム学校」の名のもとに不安定雇用の学校職員が増えるとなれば、「チーム」の名が泣くというものではないでしょうか。

「チーム学校」で日教組・全事研は何を言っているか

「チーム学校」については、他の事務職員関連団体も意見表明をしています。

そのうち日教組は、中間まとめに対する意見書において「学籍事務、教科書給与事務、人事関係事務、情報管理事務、準公金関係、地域連携、渉外などについて（略）事務職員が中心的に担当するものとして位置づけを図る必要があります」と言い切っています。労働強化を自ら引き寄せる暴挙です。また、「共同実施」推進や事務長の配置推進も求めています。

膨大な業務を少数職種＝事務職員に引き受けさせ、さらに職員間に上下関係を作り出そうとする「労働組合」とはなんなのか、考えさせられます。

全事研は月刊「学校事務」に「学校マネジメントを担う職への転換を！」と威勢のよい表題の文章を寄稿をしています。ただ、前述した通り中間まとめも答申も事務職員を学校マネジメント職に、なんてことは言っておらず、当の全事研自身も文中では「事務職員の位置付けが明確にされていない」と認めています。自身の願望になんとかこじつけた、不思議な文章です。

ともあれ、作業部会のヒアリングに対しては全事研もほぼ日教組と同内容の労働強化・事務長・「共同実施」推進の立場を取った旨、記しています。

管理強化、労働強化と不安定雇用増大の「チーム学校」

このかん「チーム学校」について、事務職員の新しく輝かしい未来を開くものと捉え期待する声が聞かれますが、これまで示してきたようにまったくそうしたものではありません。また、ただでさえ不安定雇用学校職員が増え「官製ワーキングプア」として問題になっている中、そうした労働者をさらに多く生み出す施策は容認出来ません。

私たちは管理強化、労働強化と不安定雇用増大の「チーム学校」に反対します。全学労連に結集して、ともに学校事務労働運動を進めていきましょう。

＝　＝　＝　＝　＝　＝　＝　＝

全学労連ホームページではニュース記事も公開中！ぜひご覧下さい！

全学労連　で検索　または　http://gakurou2006.web.fc2.com/